

令和3年度 全国体力・運動能力、運動習慣等調査における

北九州市立 池田 小学校の結果分析と今後の取組について

スポーツ庁による「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」について、令和3年6～7月に、5年生を対象として、「運動習慣等」についての調査を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

本結果は、学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思います。運動習慣は、学校のみでなく、家庭で運動を一緒に「する・みる・話す」ことが大切です。本校では、運動習慣の確立と授業の充実により、総合的に体力の向上を目指しています。ご家庭でも運動習慣の確立に向けた取組の充実をお願いします。

※ 本年度、本市においては「体力・運動能力」についての調査は実施していません。

1. 全国体力・運動能力、運動習慣等調査の目的

- (1) 国が全国的な子供の体力の状況を把握・分析することにより、子供の体力の向上に係る施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 各教育委員会が自らの子供の体力の向上に係る施策の成果と課題を把握し、その改善を図るとともに、子供の体力の向上に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
- (3) 各学校が各児童生徒の体力や運動習慣、生活習慣等を把握し、学校における体育・健康に関する指導などの改善に役立てる。

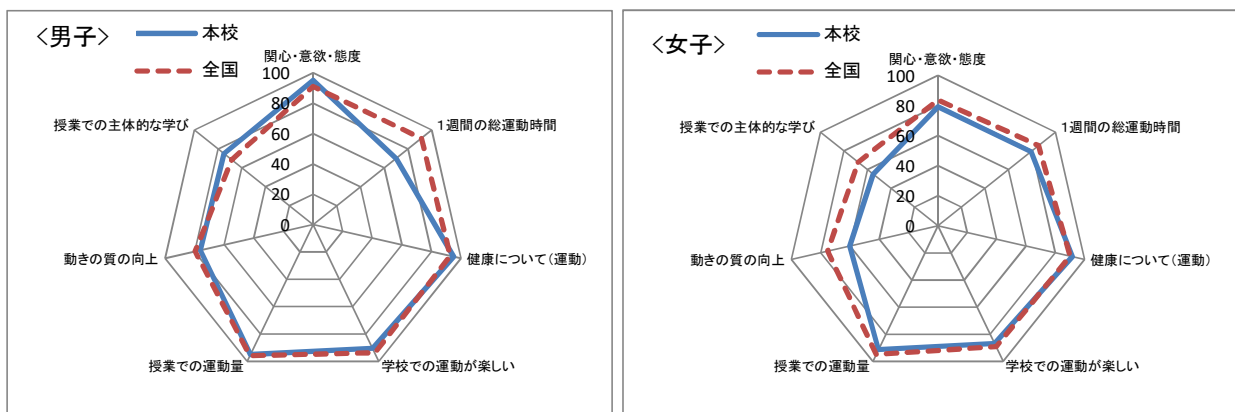
2. 本市における調査内容

- (1) 質問紙調査

運動習慣、生活習慣等に関する質問紙調査

3. 運動習慣や生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要

質問紙調査レーダーチャート



質問紙調査の結果分析

- ・ 「運動(体を動かす遊びをふくむ)やスポーツをすることは好きですか」、「あなたにとって運動(からだを動かす遊びをふくむ)やスポーツは大切なものですか」、「体力・運動能力向上の目標」という3項目の質問に対しては、男子の肯定的回答がすべて全国平均を上回っていた。普段から、休み時間になると声を掛け合って、元気に運動場で遊ぶ姿がよく見られる。
- ・ 学校の体育の授業以外でも、「運動(体を動かす遊びをふくむ)やスポーツを行っている。(1週間に60分以上の割合)」という質問に対しては、全国・北九州市と比較して、男子・女子ともに低い結果となっている。コロナ禍で、体を動かす機会が減ったためだと考えられる。これを次年度の課題としてとらえ、児童の運動量を増やすことに重点を置いた手立てを講じていきたい。

4. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科(授業)に関する取組(全校で・学年で・学級で)

- ・ 全学年の先生が、新体カテストにスムーズに取り組めるよう、体育委員会が中心となって各競技の解説動画をGIGA端末で作成した。体育委員会児童の動きを視聴することで、運動の仕方や正しいからの使い方が理解しやすくなった。また、本校児童の体力向上に対する意欲を高めることにもつながった。
- ・ 新体カテストを実施する前に、全学年、調査内容や測定方法を周知徹底した。さらに、本番では、正確に測定するために、担任だけでなく、管理職や教務主任、支援加配教員等が必ずサポートにあたった。
- ・ コロナ禍のため、全校で集まる機会が少なかった。しかし、池田小スポーツ大会で高学年の児童が中心となって運営していくことで、下級生の手本となった。全校でキッズダンスの練習や応援の練習をすることで、体を動かす楽しみや最後までやり抜く力を育てることができた。

② 運動習慣等に関する取組(1校1取組)

- ・ 年間を通して、児童が課題意識を持って主体的に運動に取り組むよう、体育科授業の最初にめあてをもたせるようにした。また、運動量を確保することに重点をおいた授業づくりを進めていった。
- ・ コロナ禍のため、中休みや昼休みに行っていた縦割りでのスポーツ集会が開催できなかった。代わりに保健学習や食育指導、委員会やクラブの活動等を通して、自分の体力に関心をもたせるようにした。健康に生活するためには、食事を始めとする、日々の健康管理以外に、体力の向上が必要であることを理解させ、運動習慣の定着を図るような指導を行った。